

修士論文（要旨）

2025 年 1 月

高齢者との対人実習を伴う看護学実習前後の社会的スキルの変化とその関連要因

指導 渡辺 修一郎 教授

国際学術研究科

国際学術専攻

老年学学位プログラム

223J5007

繁田 法史

Master's Thesis (Abstract)

January 2025

Changes in social skills before and after nursing training involving interpersonal training
with elderly people and related factors.

Norifumi Shigeta

223J5007

Master of Arts Program in Gerontology

Master's Program in International Studies

International Graduate School of Advanced Studies

J. F. Oberlin University

Thesis Supervisor: Shuichiro Watanabe

目次

I 緒言	1
I-1.我が国の人口と高齢化率及び病院入院率	1
I-2.看護師のコミュニケーションの現状と課題	1
I-3.看護職養成課程におけるコミュニケーション能力の学習目標	1
I-4.看護職員の需要と供給及び離職を取りまく問題	2
I-5.看護師教育と社会的スキルに関する先行研究	2
II 目的	4
III 対象と方法	4
III-1.対象	4
III-2.調査時期	5
III-3.調査方法	5
III-4.調査項目	5
III-5.分析方法	5
III-6.倫理的配慮	5
IV 結果	6
V 考察	7
VI 結論	10
VII 謝辞	11
文献	I
表	i

わが国の総人口は、令和 5 年 10 月 1 日現在、1 億 2,435 万人となっている。その中で 65 歳以上人口は 3,623 万人、高齢化率は 29.1%と超高齢社会となり高齢者の医療や介護ニーズが増加している。高齢者の増加に伴い認知症及び難聴、脳血管疾患等により、看護師をはじめとする医療職とのコミュニケーションに困難を生じる機会が増加している。看護師のコミュニケーションでは“患者とのコミュニケーション”は患者との信頼関係を築き、ニーズや懸念を理解し、適切なサポートを提供するために必要であり、それらを行うためには社会的スキルの向上が必要不可欠である。

本研究は、高齢者との対人実習を伴う看護学実習前後の社会的スキルの変化とその関連要因を明らかにすることを目的として実施した。

機縁法により依頼した看護師養成学校 A 校 40 名、B 校 7 名を対象として、実習前後に Web による調査を実施した。社会的スキルの指標は、菊池が開発した社会的スキル測定尺度 KiSS-18 を用いた。その他、社会的スキルの変化に関連すると考えられる項目として、同居者数、アルバイトの有無、インターンシップの経験、SNS の利用頻度、E-mail の送・返信頻度、手紙の頻度、部活動・クラブ活動の所属の有無を調査した。本研究は、桜美林大学研究活動倫理委員会の審査を受け、承認 (No. 24008) を得たうえで実施した。Web 調査への回答の提出をもって研究協力に同意したものとした。

結果、実習前の調査では A 校の 38 名及び B 校の 3 名から回答が得られた。実習後に回収された調査のうち実習前後の対象コード番号が同一であった 13 名を実習の前後比較の分析対象とした。

実習前の KiSS-18 の合計点及び下位尺度得点の得点分布は、先行研究による調査結果と同等程度であった。

横断的に KiSS-18 に関連する関連要因を検討した結果では、現在アルバイトに従事している群は、アルバイトに従事していない群より有意に「攻撃に代わるスキル」、「ストレス対処のスキル」が高値を示した。就業またはアルバイトの従事経験がある群は、「攻撃に代わるスキル」が就業またはアルバイトの従事経験がない群より有意に高値を示した。また、実習前の SNS やメールでのコミュニケーションの頻度と社会的スキルとの関連を Spearman の相関係数で検討した結果、手紙のやり取りの頻度とストレス対処スキルの正の相関がみられた。

KiSS-18 の縦断変化では、KiSS-18 の総得点は増加傾向であったが統計学的有意差はみられなかった。各質問項目別にみると、「まわりの人たちとのあいだでトラブルが起きても、それを上手に処理できますか」の項目のみが、実習前に比較し実習後に有意に向上していた。

実習前後の KiSS-18 及び下位尺度得点の変化量に関連する要因を検討した結果では、高度のスキルの変化量に関連する要因として、同居者の有無があり、同居者がいない群の方が、スキル増加量が有意に大きかった。また、就業・アルバイト経験の有無との関係では、アルバイト経験がない群の方が、高度のスキル増加量が大きかった。

実習後の SNS やメールでのコミュニケーションの頻度と社会的スキルの変化量との関連を検討した結果、メールや LINE の平均送信頻度と「攻撃に代わるスキル」の増加量の間に負の相関がみられた。SNS やメールでのコミュニケーションは、社会的スキルの一部である「攻撃に代わるスキル」の発達を妨げる可能性があることが示された。

追跡調査への回答の有無に関連する要因を検討した結果、追跡調査への回答の有無と属性との間、追跡調査への回答の有無と実習前の KiSS-18 の総得点及び各下位尺度得点との間のいずれにも有意な関連を認めた項目はみられなかった。

文献

- (1)令和 5 年版高齢社会白書「令和 5 年度 高齢化の状況及び高齢社会対策の実施状況、第 1 章 高齢化の状況」第 1 節、高齢化の状況、2024 年 5 月 1 日.
- (2)厚労省、「第97回社会保障審議会医療保険部会」資料7、2016 年 9 月 29 日.
- (3)文部科学大臣指定(認定)、「医療関係技術者養成学校一覧」、2023 年.
- (4)文部科学省、「高等学校における看護教育、日本の看護教育制度について」、2021 年 11 月 11 日.
- (5)厚生労働省、「第 110 回保健師国家試験、第 107 回助産師国家試験及び第 113 回看護師国家試験の合格発表」、2024 年 3 月 22 日.
- (6)南本ゆみ、中山登志子、舟島なをみ、「看護基礎教育機関を退学した学生の退学に至る経験の概念化」『看護教育学研究』29 巻、1号、2020 年.
- (7)山下暢子、舟島なをみ、中山登志子、「看護学実習中の学生が直面する問題-学生の能動的学修の支援に向けて」『看護教育学研究』Vol.27、No1、2018 年.
- (8)文部科学省、「新たな看護師等養成カリキュラムに対応した指導の手引き」
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/shinkou/kango/20211111-mxt_koukou01-1.pdf、2021 年 11 月 11 日.
- (9)文部科学省、「看護学教育モデル・コア・カリキュラム.学士課程においてコアとなる看護実践能力」の修得を目指した学修目標 大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会」p3-4、2017 年 10 月.
- (10)荒木善光、戸渡洋子、中村京子「看護学生のコミュニケーション・スキルとそのスキルを活用する重要度・自信度との関連」『熊本保健科学大学研究誌』No.16:95-103、2019 年 3 月.
- (11)総務省、「令和 4 年 情報通信に関する現状報告の概要」第 2 部、情報通信分野の現状と課題、第 8 節 デジタル活用の動向.情報通信機器の世帯保有率の推移」2022 年 7 月 5 日.
- (12)橋元良明「ネット依存の現状と課題—SNS 依存を中心として」『ストレス科学研究』33 巻、p.10-14、2018 年.
- (13)厚生労働省、「看護師等(看護職員)の確保を巡る状況」第 2 回看護師等確保基本指針検討部会、参考資料 2、2023 年.

(14)第2回看護師等確保基本指針検討部会「看護師等(看護職員)の確保を巡る状況に関する追加資料【第1回検討部会(令和5年5月29日)の議論を受けた追加資料等】」資料2、2023年.

(15)大久保瞳、西澤桃子、西村美里、「看護学生の一般的なコミュニケーション・スキルの関連性—CMCの普及による時代背景の変化に着目して」『ヒューマンケア研究学会学術集会』プログラム、抄録集、8巻、p21、2016年10月.

(16)金子さゆり、樫野香苗、「基礎看護学実習における看護学生のストレス因子構造と対処行動」『名古屋市立大学看護学部紀要』2015年4月22日.

(17)湯山美杉、本田芳香、小原泉、里光やよい、福田順子、飯塚由美子、中塚 麻美「看護学生の社会的スキルを学ぶ教育方法としての SP 導入による看護過程演習—KiSS-18 による調査から—」『日本看護学教育学会誌』28巻、3号、p41-48、2019年2月22日.

(18)百々典子、「臨地実習における看護学生の自己効力感をテーマにした文献レビュー」『日本看護学教育学会誌』27巻、3号、p13-27、2018年.

(19)菊池章夫、「Social Skill 尺度の作成」東北心理学会 42 回大会発表『東北心理学研究』38 号、p67-68、1988 年.

(20)菊池章夫、『思いやりを科学する』川島書店、1988 年.

(21)菊池章夫、「Kiss-18 研究ノート」、『岩手県立大学社会福祉学部紀要』第6巻、第2号、2004年3月30日.

(22)菊池章夫、「社会的スキルの問題(小講演)」、『日本教育心理学会総会発表論文集』第31回総会発表論文、1989年.

(23)菊池章夫、『また思いやりを科学する』川島書店、1998年.

(24)菊池章夫、「KiSS-18 の 12 年」、『日本性格心理学会発表論文集』8 巻、p26-27、2000 年.

(25)石光芙美子、古谷剛、林美奈子、「看護大学生の半年間にわたる臨地実習前後の社会的スキルの変化」目白大学、『健康科学研究』第5号、p61-66、2012年.

(26)千葉京子、「看護における社会的スキル尺度作成の試み」、『日本看護科学会誌』16 巻、2 号 1996 年.

(27)千葉京子、相川充、「看護における社会的スキル尺度の構成」、『看護研究』33(2)、p53-62、2000 年.

(28) 三浦まゆみ、布佐真理子、千田睦美、野崎智恵子、「新人看護婦の看護における社会的スキル」、『日本看護研究学会雑誌』23 巻、3 号、2000 年。

(29) 荒木節子、「看護婦の自己受容度の患者尊重行動への影響」、『富山医科薬科大学看護学科修士文』p16-17、2001 年。

(30) 岩城直子、「看護における社会的スキル」尺度短縮版の作成の試み」、『富山大学看護学会誌』第 8 巻、1 号、2008 年。

(31) 野崎智恵子、千田睦美他、「看護大学生の社会的スキル」、『第 30 回日本看護学会論文集看護教育』p74-76、1999 年。

(32) 工藤千賀子、原田真里子、櫛引美代子、「G 大学看護学部における社会的スキルの実態」、『北日本看護学会誌』10、45-51、2007 年。

(33) 山本美弥、榊原千佐子、石井成郎、須賀京子、「看護学生の社会的スキル向上を目指すグループ学習の検討—授業デザインと教員の関わりに焦点をあてて—」、『日本看護医療学会雑誌 11』p17-25、2009 年。

(34) 大内隆、森田敏子、「看護基礎教育カリキュラム開発 人形劇を用いた交流会ボランティアから学ぶ自発性と社会的スキルの獲得」、『日本看護科学学会学術集会講演集 28 回』414、2008 年。

(35) 千葉京子、川崎彰子、横森久美子、尾山とし子、森美智子、「問題基盤型学習 (PBL) を用いたテュートリアル教育—対人関係技能の発達に焦点をあてて—」、『日本赤十字武蔵野短期大学紀要 17』p7-11、2004 年。

(36) 田邊要輔、藤田勇、渡辺敏博、山田洋子、親松善靖、石山正己、山本智美、佐藤久子、加藤真由美、丸山京子、「精神看護学臨地実習前後における対人関係能力の比較」、『桐生大学紀要 20』p61-69、2009 年。

(37) 出口由美、阿南あゆみ、柴田弘子、金山正子、「看護学生への自我態度と社会的スキルとの関連—本学 4 年生への調査より—」、『産業医科大学雑誌 26』153、2004 年。

(38) 湯山美杉、本田芳香、小原泉、里光やよい、福田順子、飯塚由美子、中塚麻美「看護学生の社会的スキルを学ぶ教育方法としての SP 導入による看護過程演習—KiSS-18 による調査から—」、『看護学教育学会誌』28 巻、3 号、p41-48、2019 年。

(39) 後藤満津子、藤原理恵子、松脇喜久美、中井英美子、村木士郎「看護学生の社会的スキルと不安の学年進行に伴う経年変化」、『日本精神保健看護学会誌』29 巻、1 号、p97-105、2020 年。

(40) 下村美佳子、時長美希、和田恵、「看護学生の臨地実習前後の社会的スキルの変化と実習中における人とのかかわり」、『高知女子大学看護学会誌』VOL.41、NO.1、p163-169、2015 年.